



<フィリピン株式市場フラッシュ>

情報提供用資料

2021年7月7日

回復しつつある株式市場

フィリピン株式市場は、新型コロナウイルス感染症の拡大で年初から下落、4月末には昨年末比-10.8%となった。しかし、厳しい対策措置がとられた結果、感染者数拡大が頭打ちとなり、移動制限が緩和され、政府によるワクチン確保も進み始めると株価もリバウンドし、6月末には同-3.3%まで回復した。

政府は景気のコトコトのために「企業復興税優遇法案 (CREATE)」によって東南アジア諸国で最も高い法人税を最大20%まで引き下げた。これによって今後企業業績の改善が見込まれる。

消費を支える雇用状況・海外送金の回復

フィリピンは消費が活発な国であり、個人消費がGDP全体の約7割を占める。すなわち消費動向が大きく国の経済を左右するが、近時、消費に結びつく雇用と海外送金の回復が見られるようになった。

① 失業率が改善

5月の失業率は7.7%と4月の8.7%から1ポイントの大幅改善、首都圏周辺 (NCR Plus) の移動規制緩和により今後も改善が期待できる。不完全雇用率 (雇用はされているが能力以下の仕事に従事せざるをえない状況の者) も大幅に減るなど雇用状況は改善を見せている。

② 海外労働者 (OFW) 送金の回復

フィリピンのGDPの約1割を占める海外で働く労働者からの送金は、米国等の経済回復を背景に回復、4月単月は前年同月比+12.7%の23億ドルとなり、1~4月の累計額は前年同期比+4.8%の99億ドルとなった。

コロナ感染およびワクチン接種状況

厳格な隔離政策によってコロナの感染状況は4月の10,000人超/日の状況からその半数程度まで改善している。コロナワクチンについては、6月だけで合計912万8,000回分が到着。これは過去のすべての月を合わせたワクチン数を上回っている。政府は、今後数カ月のうちに1日50万本接種することを目標としている。

人口1億900万人 (IMF推) の同国の70%に接種を完了して集団免疫を獲得するには2022年末から2023年1Qまで時間を要すると思われるが、同国のGDPの約50%を占めるNCR Plus (人口約27百万人) はそれよりも早く (2022年1Q~2Q) 集団免疫を獲得する可能性がある。

今後の見通し

コロナ感染関係の最良のニュースは、ワクチンの到着と管理の大幅な改善。法人税率の引き下げとコロナ感染者数の減少によって年末に向けて堅調に上昇していくと見ている。

以上

